

守るべきものは「本物と本質」

「事業継承の極意」について9回にわたり連載してきた。最終回である今回は、老舗企業が事業継承をしていく中で、守るべきもの、変えていくべきものが、それぞれ何なのかを考えてみたい。

八木澤商店の8代目社長、河野和義氏は「高田地元学」の提唱者であり、東北大学で毎年「地元学」の講義を受け持っている。

「地元学」とは、いわゆる「学問」とは異なり、「地元を学ぶ」という考え方である。地元の人々が主体となり、その地域ならではの個性や豊かさを探し出し、地域づくりに生かしていくものだ。例えば、地形や気候、伝統文化や食文化、もの作り、生活のあり方など、日々接しているさまざまなものを見直し、新しく組み合わせたりして地元を力を生み出していく。

8代目が、この「地元学」の

発祥の地といわれる熊本県水俣市の人々に学び、陸前高田（岩手県）に持ち帰った。今では、その取り組みが他の地方からも注目されている。

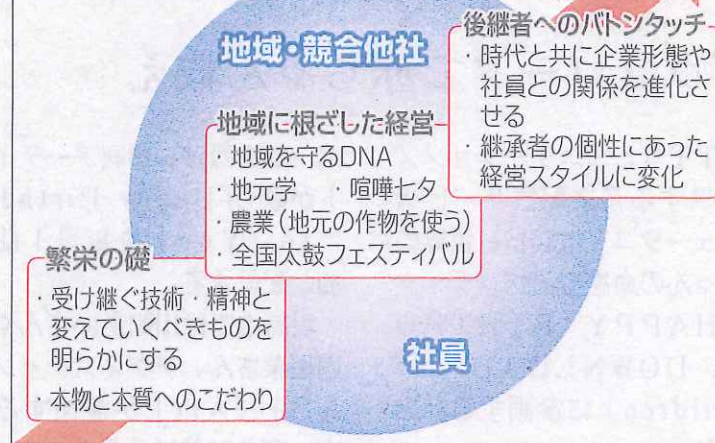
陸前高田は今、子供の数も減り、若者も働く場所がなく、町から出ていかざるを得ないことが問題になっている。多くの高校生が3年の夏に地元に残ることを希望するが、地元の求人票は1通もない状況だ。

そうした事態を変えていくために、八木澤商店は地元の人材を積極的に採用している。これまでは中途採用だったが、9代目の通洋氏は新卒採用にこだわる。人が育つ会社にし、その中から地元で独立したいという人を生み出すことが夢だと語る。独立する人が増えれば新しい仕事生まれ雇用が生まれる。そうすれば、「自分たちの町を自分たちで守る」という新しい意識が町に芽生えていくと考えて

事業継承の極意

八木澤商店の発展の要

(全10回の総括)



いる。

また、9代目は技術面でも新しい取り組みを考えている。八木澤商店のしょうゆは、すべて本醸造だが、中小のメーカーでは混合醸造が多い。これでは地方のしょうゆメーカーの技術が

いまの・せいいち 日本リクルートセンター（現リクルート）、リクルートコスモス（現コスモスイニシア）を経て1998年組織人事コンサルティング会社「マングローブ」設立。著書に『マングローブが教えてくれた働き方』（P-VineBOOKs）。

マングローブ
代表取締役社長 今野誠一

世代ならできるといふ展望を持っている。

第1回で、私は「老舗企業の事業継承の繰り返しには、守るべきものと変えていくべきものを見極める『時代の克服』の難しさが横たわっている」と書いた。

重要なことは「受け継ぐべきものと、変えていくべきものをはっきりさせ、守るべきものを自分の世代の新しいやりかたで守っていく」ことである。

また、「本物と本質へのこだわりが独自性につながるのであり、最も守るべきものである」ということも忘れてはならない。このことが、事業継承に悩む企業の経営者の方々に、少しでもヒントになれば幸いである。＝おわり

どんどん失われていく。伝統の技術が強みのはずなのに、自らそれを投げ捨ててしまっている。それに歯止めをかけるために、ライバル関係を超えて、一緒になって技術を守り、地域を守っていく活動が、自分たちの